海外レポート

スウェーデンに留学して

歯学部　谷本啓二

昭和63年6月22日から平成元年4月21日までの10か月間，長期在外研究員として海外出張をさせていただいた。テキサスのサンアントニオに3週間滞在した後，西ドイツを経て主目的国であるスウェーデンに着いたのは7月31日であった。ドイツから汽車でデンマークに渡り，水中翼船でマルメに着いたのだが，汽車が約1時間遅れ，迎えにきて下さったペターソン教授には，雨の中，長い間待っていただき，本当に申し訳なかった。着いたのは日曜日である。その上，私はマルメでの予定や宿泊場所等については一切知らされていなかったので汽車の遅れは私を不安に陥れた。妻子を同行していたことも，一層私に責任を感じさせた。宿にあぶれたらどうしよう。おそるおそる税関を出ると先生のやさしい笑顔が私の目に飛び込んで来た。本当に嬉しかった。先生は私たちを連れて簡単に町を案内して下さり，その後アパートに送って下さった。アパートは月2,000クローネ約4万円であった。もちろん家具付きである。妻子は夏休みの間だけスウェーデンに滞在する予定であったため，アパートには簡易ベットが1台余分に入れてあった。北欧調の家具はとってもいい感じだった。着いた日は早速同教授が夕食に招待して下さり，翌日の朝食の材料までおみやげにいただいた。着いたばかりで右も左も分からない上，日曜日なのであちこちのお店が休みでもあり，とても有難かった。翌日は再びアパートへ迎えに来ていただき他のスタッフに紹介していただいた。

夏の間は研究のアクティビティが低いので大学に出てこなくていいといわれたが，そうもいくまいと思って時々大学に出かけてみた。患者さんがほとんどいない。これは夏だけの現象なのかな，それとも……。一瞬心を不安がよぎる。ルンド大学歯学部は5年か6年前から歯科医師過剰のため，その先陣を切って学部閉鎖に踏み切っており，現在は，たった一人の留学生が残るのみである。しかし，彼らは生き残る手段として大学院大学を目指し，マスターコースとポストグラデュエトコースを開くとともに，以前以上の活発な研究活動を続けている。それなのにこの閑古鳥は一体？シェスティンという比較的若い先生が学部内を案内してくれた時，廊下の壁のあちこちに穴が開いているのをさして「みっともないでしょう。学生がいた頃は毎年修理していたのでとってもきれいだったのに。」とぼやいていた。そして何十台というユニットチェアーがほこりをかぶって放置されていた。かなり見放されているのかな？ともかく暇で暇で仕方がないので研究を始めたいと思って教授のところへ相談に行った。しかし，9月になるとみんなが来るから待ちなさいとのこと。夏休みも終わりフルスタッフが出てきた。でも患者の状態はあまり変わらない。これは真剣に研究をやらないとなーんにもならんぞと気がついて，何度か教授のところへ足を運んだ。そして，やっと研究がスタートしたのは10月のことであった。スウェーデンでは簡単に物事が片付くことはないといわれるが実感してしまった。仕事が始まってみるとあまり簡単なものではない。結局，“日本人らしく”土日出勤で夜遅くまで頑張らざるを得なかった。もっともこの頃になると妻子も帰国してしまっており，他のスウェーデン人たちのように5時に家に帰ってもやることがなくて

困ってしまうという現実もあったが。しかし，それなりに社会の空気を吸おうとコンサートを聴きに何回か出かけた。1,000円以下でコンサートが聴けるのはやはりスウェーデンならではであろう。

スウェーデンの冬はご存じのように長くて寒いはずであった。しかし，私の行った年は60年来の暖冬だそうで平年より20度近くも暖かかった。あるスウェーデン人は，今年は冬がないとぼやいていた。とはいえ，－2度とか－3度はやはり寒い。私は自転車（中古品のおんぼろ自転車，一金2,000円也）を買って乗り回していたのだが，マルメはとても風が強く，また道路が凍結することもあり，冬場はスリップしてあまり快適とは言い難かった。自転車道は，噂どおり見事に整備されていた。歩行者として道を歩いていた時には気がつかなかったが，自転車で町を走ってみるとその気配りに驚いてしまった。もちろん，自動車道も非常によく整備されていた。この国の人口は僅か800万人。交通渋滞のほとんどないこの国では，20kmは20分という感覚であった。羨ましい！　信号で1回待つと「今日は車が混んでるね。」というのには参った。

歯科事情は当然いろいろな国で異なっていた。スウェーデンは歯科先進国である。放射線被曝に関する規制はもっとも厳しいように見受けられた。また，専門医の制度も発達していた。専門医の資格を得るには大学卒業後7～8年のトレーニングが必要であり，しかるべき研修を受けたものはメディカルボードによって認定される仕組みになっており，研修内容もかなり広範囲にわたっていた。たとえば，歯科放射線科医になるには2年間一般の歯科医師として治療を行った後，大学の歯科放射線科に残り，歯科放射線学について研修するとともに，放射線医学や口腔外科学を学ぶため，それぞれ半年間医学部や同附属病院の放射線学教室や口腔外科学教室に所属し，さらに歯科矯正学その他の専門科目や耳鼻咽喉科学等の隣接医学領域のコースまで多くの単位を修得することが要求されている。このような研修を終えた専門医にはかなりの権威が付与されていた。たとえば，日本ではパノラマという撮影装置は大抵の歯科医院に設置されているが，スウェーデンでは専門医がいないと，たとえ20人を擁する大きなスペシャリストクリニックであろうとこの装置を設置することは許されていない。また，フィルムを撮影した場合，歯科放射線科医は必ず報告書を付けることが義務づけられている。日本でも徐々に専門医制度が導入されつつあるが，真に患者のためになる専門医制度になってほしいものである。

私のスウェーデンでの体験のほんの一部を紹介させていただいたが，今回の留学で多くの友人を海外に持つことができた。この友情を今後さらに深め発展させて行きたいと思っている。最後に，皆さんのおかげを持ちましてこのような貴重な体験をさせていただいたことに衷心より感謝の意を表させていただきます。

マルメのレストランにて
ペターソン教授夫妻と